



新品種、新技術(栽培・防除) で地域を活性化!

峰 雄大さん (35歳)

今回は、太良町喰場地区でカンキツ経営に取組まれている峰雄大さんをご紹介します。

峰さんは以前は県外に勤務されていましたが、3年前にUターン就農し、現在、お父さんとは経営を分けてカンキツの栽培をされています。

今シーズン、特に手をかけたのは初出荷を迎える露地の佐賀果試35号(にじゅうまる)です。写真の園地は露地栽培のモデル園に選定されており、これまで施設栽培のモデル園に取り組みされてきたお父さんの協力を得ながら、栽培指針に基づき管理をされています。防除等に労力がかかったとおっしゃっていましたが、かけた労

力に見合ったきれいな果実が実っており、まさに地域のモデルとなる園地に仕上がっています。

また、温州みかんについては、太良町において先駆的に「埋込式根域制限栽培」を導入されています。苗木は順調に樹冠拡大し来年度から果実生産が開始されます。

さらに、ドローン防除のオペレーターとしても研鑽を積まれております(p4参照)。カンキツ園地の維持・発展による地域の活性化に欠かせない存在の峰さん。

今後もさらなる活躍が期待されます。

受賞おめでとうございます

<佐賀農業賞>

先進的農業経営の部 優秀賞 佐賀新聞社賞

嬉野市塩田町 株式会社 桑原畜産 代表取締役 桑原 大輔 常務取締役 桑原 幸子

桑原畜産では従業員一丸となって佐賀県農業のトップブランドである「佐賀牛」の素牛生産、肥育、加工、販売、輸出に取り組まれています。

飼養規模は県内屈指の2,000頭を誇り、独自のマニュアルに基づいて牛1頭1頭の個体管理を行うことで、枝肉共励会でも数々の賞を受賞されています。

また、地域貢献の意識も高く、新規就農者に対し、手間をかけてつくった堆肥を無償で提供されるなど、スムーズに営農開始が出来るように畜産サイドからもサポートされています。



若い農業経営者の部 優秀賞

鹿島市 宮崎誠氏・由佳氏

宮崎氏は、統合環境制御装置を用いたハイワイヤー栽培を県内でいち早く導入し、63aのハウスで高収量・高品質な丸トマトを栽培されています。気象の変化をいち早く捉え、経費を抑えながらも安定的に収量を確保する栽培を常に意識することで、年々収益性を向上させており、トマトの販売単価の低迷、継続的な経費高騰と過酷な環境下にある中でも、「稼げるトマト経営」を実現されています。令和4年には、宮崎氏をリーダーとして、部会の若手生産者と新規就農者で構成される「若手勉強会」を立ち上げ、とまとトレーニングファーム卒業生を含む地域の若手農家を牽引する存在となっており、今後、地域農業のリーダーとしての活躍が期待されます。



地域活性化の部 優秀賞

嬉野市塩田町 農事組合法人ドリームファーム福富 代表理事 田中平一郎

福富集落では、平成14年に16戸の農家で設立した大豆コンバイン機械利用組合を段階的に発展させ、平成27年に「農事組合法人ドリームファーム福富」を設立されました。

法人では農業機械の導入や農地集積を進め、組合員の利益増進を図るとともに、次代を担う若手や女性の意見を重視して、次代につなぐ農業経営を実践されています。

また、酒米「山田錦」の乾田直播栽培に独自のアイデアで開発したオリジナル播種機を使用するなど、困難な栽培技術にも対応されています。この技術が他の法人へ波及しており、地域農業活性化の優良事例として今後の組織発展が期待されます。



受賞おめでとうございます

快挙!! うれしの茶が日本一4冠を獲得!!

福岡県八女市で開催された第77回全国茶品評会の「蒸し製玉緑茶の部」において三根孝之さん（嬉野市）が、「釜炒り茶の部」において山口孝子さん（嬉野市）が、それぞれ最高賞にあたる「農林水産大臣賞」を受賞されました。

また、嬉野市としても、「蒸し製玉緑茶」と「釜炒り茶」の2部門において、最も優れた茶産地に贈られる「産地賞」を授与されました。

うれしの茶が個人と産地で日本一の4冠を獲得したのは11年ぶりの快挙です。コロナや豪雨災害など暗い話が多かった中で、この久しぶりの快挙に多くの人が喜んでます。



24年ぶりの団体日本一!! 茶生産青年茶審査競技会

全国の茶青年がお茶の品種や産地を判別する技術を競い合う第40回茶生産青年茶審査競技会の「団体の部」で、嬉野市の茶青年で構成した「佐賀Aチーム:田中将也さん、永尾俊介さん、田中拓哉さん、永尾耕大さん、中寫正将さん」が見事優勝を果たし、日本一に輝きました。

嬉野市の茶青年が団体優勝したのは平成11年以来2回目、24年ぶり。また、永尾耕大さんは「個人の部」でも、準優勝されています。

今年度、うれしの茶は全国茶品評会の2部門において、農林水産大臣賞、産地賞をW受賞しており、産地として嬉しい話題が続いています。



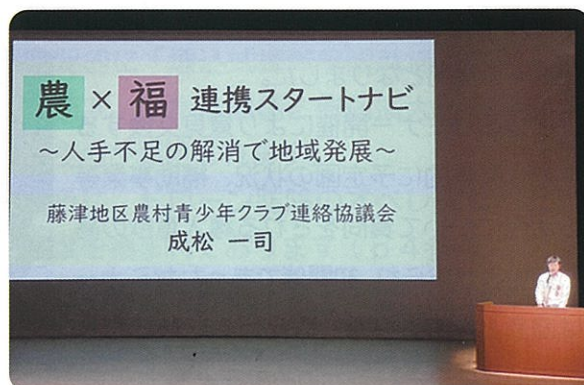
鹿島市橋川さん 果樹技術・経営コンクール最優秀賞に決定!

令和5年度佐賀県果樹・経営コンクール技術部門（品目：露地みかん）で鹿島市の橋川英正さんが最優秀賞（農林水産大臣賞）に選ばれました。橋川さんは根域制限栽培に取り組み、園地、樹体管理、高品質果実生産の技術が高く評価されました。

藤津地区の4Hクラブ員が佐賀県代表として農福連携の取組を発表しました!

令和5年度九州・沖縄地区青年農業者会議が7月20日、21日に大分県で開催されました。佐賀県代表として、藤津地区の成松一司さん（嬉野市塩田町、キュウリ）が「プロジェクト発表の部」に出場され、自身の農福連携による労働力確保の取組について発表されました。成松氏は、福祉事業者と生産者の双方にメリットがある関係を目指して、管理作業の見える化や単価設定の改善を行い、農福連携に取り組んだことで、従業員を増やさずに規模拡大も実現されています。

この取組は、藤津地区の農福連携のモデルとして、地域への波及が始まっています。





みかん園ドローン防除実証開始！

温州みかん栽培において薬剤防除は重労働の一つです。傾斜園ではSS等防除機が導入しにくいことから、全国的に注目されているのがドローンの活用です。現在、JA・市町・県機関で構成される「多良岳オレンジ海道を活かす会」では中山間ルネッサンス事業を活用し、防除実証に3年計画で取り組まれています。鹿島市4名・太良町3名の計7名の若いみかん農家が講習を経てオペレーターとして操作技術の習得に取り組まれており、令和6年度からは実証園地において年間を通したドローン防除体系の実証を開始されます。今後、自動飛行の実施も検討されており、ドローンによる大幅な防除省力化の実現が期待されています。



果樹(みかん・シャインマスカット)栽培はじめようセミナー開催！

果樹栽培の新規就農者、栽培者を確保するために果樹栽培はじめようセミナーをJAさがみどり地区みかん部会、ぶどう部会と共催し開催しました。

9月3日に開催した「シャインマスカットはじめようセミナー」では15名が参加され、室内研修後、鹿島市古枝地区の収穫中のシャインマスカット園で現地研修を実施しました。シャインマスカットは収益性も高いことから参加者のうち11名が栽培を始める予定となりました。また11月5日に開催した「みかん栽培はじめようセミナー」では11名が参加され、鹿島市古枝地区でブランドみかん園、七浦地区で根域制限栽培園の現地研修を実施しました。参加したほとんどの人がみかん栽培を始める方向で、うち8名は根域制限栽培導入を検討する意向となりました。



シャインマスカット栽培 現地研修



みかん根域制限栽培 現地研修

2つのセミナー開催により意見交換する中で、具体的に予定園の状況、補助事業等の活用について質問をされる導入意欲の高い参加者がおられ、初開催であったセミナーは盛会となり、今後、両品目の新規栽培者の増加が期待されるところです。